

特別企画：事業承継に関する大分県企業の意識調査（2020 年）

企業の 65.7%が事業承継を経営上の問題と認識 ～ 新型コロナを機に事業承継への関心が高まった企業は 14.5%に ～

はじめに

中小企業庁が 2017 年 7 月に事業承継支援の集中実施期間とする「事業承継 5 ヶ年計画」を策定してから、3 年が経過した。新型コロナウイルスの影響拡大により倒産や休廃業の増加も懸念されるなか、その回避策としての事業承継も今まで以上に注目されている。また、政府は中小企業の経営資源の引継ぎを後押しするため、「経営資源引継ぎ補助金」を実施するなど、円滑な事業承継に向けて積極的な支援が行われている。

そこで、帝国データバンクは、事業承継に関する企業の見解について調査を実施した。本調査は、TDB 景気動向調査 2020 年 8 月調査とともに行った。

※調査期間は 2020 年 8 月 18 日～31 日、調査対象は大分県内 168 社で、有効回答企業数は 76 社（回答率 45.2%）。なお、事業承継に関する調査は、2017 年 10 月以来、今回で 2 回目

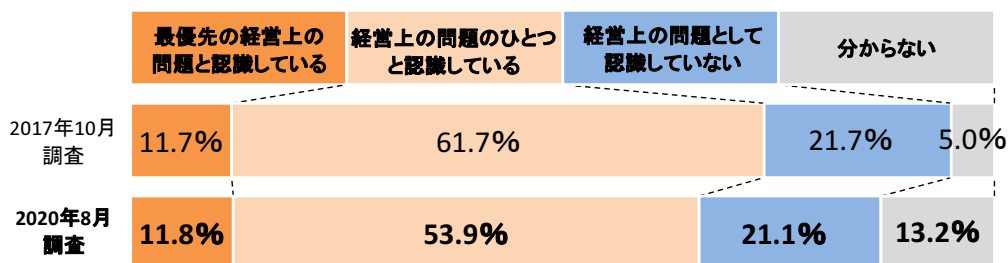
調査結果（要旨）

1. 事業承継への考え方について、「最優先の経営上の問題と認識している」企業が 11.8%となり、「経営上の問題のひとつと認識している」（53.9%）と合わせると 65.7%が事業承継を経営上の問題として認識している。「経営上の問題として認識していない」は 21.1%、「分からない」は 13.2%だった
2. 新型コロナウイルスを契機とした事業承継に対する関心の変化を尋ねたところ、「変わらない」とした企業が 69.7%で大半を占めており、「高くなった」企業が 14.5%で、「低くなった」とする企業はなかった
3. 事業承継の計画の有無について、「計画があり、進めている」企業は 19.7%、「計画はあるが、まだ進めていない」は 22.4%となった。企業の 42.1%が事業承継計画を有している一方で、そのうち約半分は進めていなかった。また、事業承継を経営上の問題と認識している企業や、社長年齢が高い企業ほど事業承継を計画している傾向が高い
4. 事業承継を行う上で苦労したことでは、「後継者の育成」が 54.2%で最も高い（複数回答、以下同）。また、苦労しそうなことに関しても「後継者の育成」（54.8%）、「後継者の決定」（42.9%）が上位となり、総じて後継者問題に関する懸念が上位にあげられている
5. 近い将来（今後 5 年以内）、事業承継を行う手段として「M&A に関わる可能性がある」企業は 40.8%となった。規模別では「大企業」が 12.5%、「中小企業」は 44.1%と全体を上回り、「小規模企業」では 36.7%となった

1. 事業承継を経営上の問題と認識している企業は 65.7%

事業承継についてどのように考えているか尋ねたところ、「経営上の問題のひとつと認識している」と回答した企業が 53.9%で最も高かった。また、「最優先の経営上の問題と認識している」は 11.8%となり、合計すると企業の 65.7%が事業承継を経営上の問題と認識していた。ただし、2017 年 10 月時点と比較すると「最優先の経営上の問題と認識している」は僅かに増加、「経営上の問題のひとつと認識している」は減少している。「経営上の問題として認識していない」(21.1%) は 2017 年から減少し、「分からない」は 13.2%だった。

事業承継に対する考え方



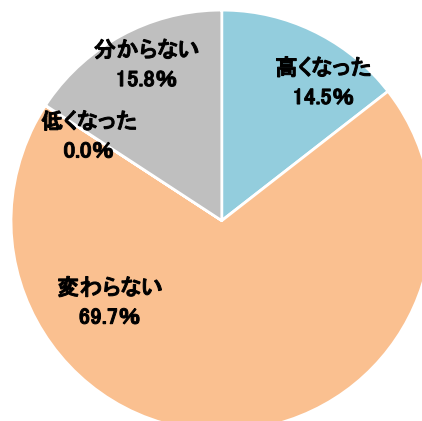
注1: 母数は有効回答企業76社、2017年10月は60社

注2: 小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

2. 新型コロナウイルスの拡大を契機に事業承継への関心が高くなった企業は 14.5%

新型コロナウイルスの影響を契機として事業承継に対する関心に変化したかどうかを尋ねたところ、「変わらない」企業が 69.7%と大半を占めており、「高くなった」が 14.5%、「低くなった」は 0.0%となった。

新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした、事業承継への関心の変化



注: 母数は有効回答企業76社

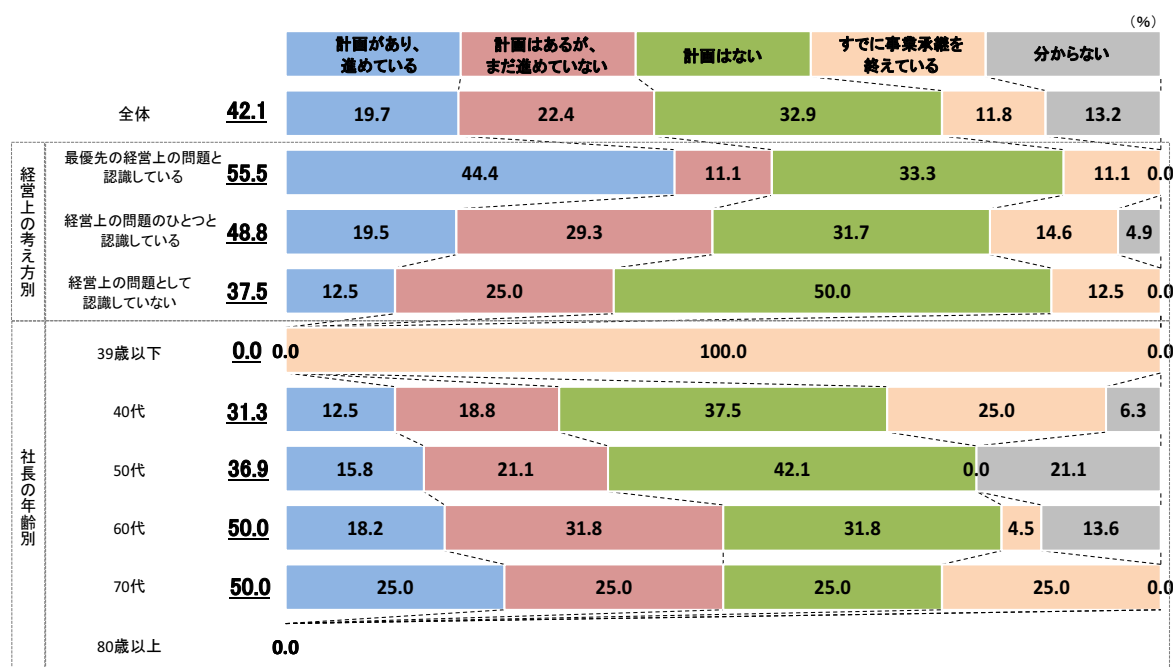
3. 企業の4割で事業承継の計画があるものの、うち約半分が進めていない結果に

事業承継を進めるための計画の有無について尋ねたところ、「計画があり、進めている」企業は19.7%、「計画はあるが、まだ進めていない」は22.4%となった。合計すると企業の42.1%は事業承継の計画があるものの、そのうち半分以上の企業で進めていない結果となった。一方で、「計画はない」は32.9%、「すでに事業承継を終えている」は11.8%だった。

事業承継に関する計画の有無を経営上の問題認識別にみると、事業承継を「最優先の経営上の問題と認識している」企業では55.5%が計画を有しており、さらに計画を実際に進めている割合も44.4%となった。それに対して、事業承継を「経営上の問題のひとつと認識している」企業では48.8%が計画を有し、19.5%が進めている。事業承継を最優先の問題と認識しているかが事業承継計画の有無を大きく左右することが明らかとなった。

さらに、事業承継に関する計画の有無を社長年齢別にみると、事業承継を終えている企業は「39歳以下」では100.0%。一方で、「40代」以降は社長年齢が高くなるにつれて、事業承継の計画を有している割合や計画を進めている割合も増加する傾向が表れている。

事業承継に関する計画の有無 ～経営上の考え方別・社長の年齢別～



注1: 母数は有効回答企業76社。「社長の年齢別」の母数は、社長年齢が判明している企業70社

注2: 下線の値は『事業承継の計画がある』（「計画があり、進めている」「計画はあるが、まだ進めていない」の合計）の割合

4. 事業承継で「苦勞したこと」「苦勞しそうなこと」とともに後継者の育成がトップ

事業承継に関する計画に対して「計画があり、進めている」「すでに事業承継を終えている」とした企業に対して、事業承継を行う上で苦勞したことを尋ねたところ、「後継者の育成」が 54.2% でトップとなった（複数回答、以下同）。次いで、後継者の育成の前提となる「後継者の決定」（33.3%）、や「後継者への権限の移譲」（33.3%）が 3 割台で続いた。

さらに、事業承継に関して「計画があり、まだ進めていない」「計画はない」とした企業が想定する苦勞しそうなことでは、「後継者の育成」が 54.8% で半数を超えトップとなり、「後継者の決定」（42.9%）も続き、後継者に関する 2 項目を懸念事項と考えている様子がうかがえた。次いで、「承継前の経営者の個人保証や担保」（26.2%）が続いている。

事業承継を行う上で苦勞したこと、しそうなこと ～各上位 10 項目～

(%)

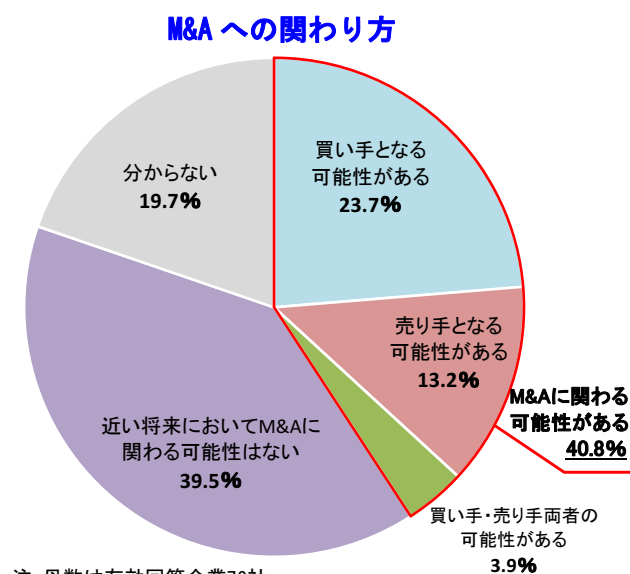
苦勞したこと			苦勞しそうなこと		
1	後継者の育成	54.2	1	後継者の育成	54.8
2	後継者の決定	33.3	2	後継者の決定	42.9
2	後継者への権限の移譲	33.3	3	承継前の経営者の個人保証や担保	26.2
4	従業員の理解	25.0	4	従業員の理解	23.8
4	取引先の理解	25.0	4	自社株など資産の取扱い	23.8
4	自社株など資産の取扱い	25.0	4	事業の将来性や魅力の向上	23.8
4	事業の将来性や魅力の向上	25.0	7	承継に必要な資金の確保	21.4
8	金融機関の理解	20.8	8	金融機関の理解	19.0
8	相続税・贈与税などの税金対策	20.8	9	相続税・贈与税などの税金対策	16.7
8	承継に必要な資金の確保	20.8	9	後継者への権限の移譲	16.7

注：「苦勞したこと」の母数は、事業承継に対して「計画があり、進めている」「すでに事業承継を終えている」と回答した企業 24 社。
「苦勞しそうなこと」の母数は、事業承継に対して「計画はあるが、まだ進めていない」「計画はない」と回答した企業 42 社。

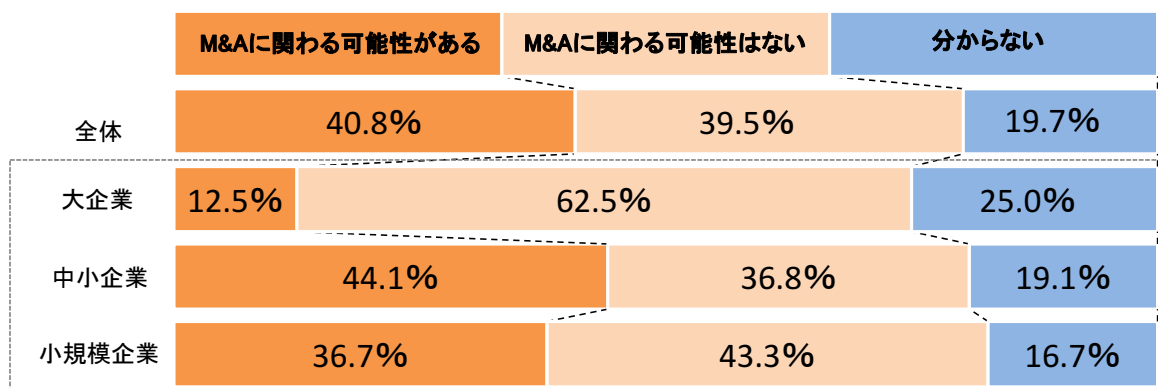
5. M&A に関わる可能性がある企業は 40.8%、可能性がない企業も 39.5%と近い水準に

事業承継を行う手段として、M&A¹への注目が高まっている。そこで、自社について近い将来（今後 5 年以内）における M&A への関わり方について尋ねたところ、「買い手となる可能性がある」は 23.7%、「売り手となる可能性がある」は 13.2%、「買い手・売り手両者の可能性がある」は 3.9%となった。合計して企業の 40.8%が事業承継を行う手段として M&A に関わる可能性があると考えている結果となった。一方、「近い将来において M&A に関わる可能性はない」は 39.5%、「分からない」は 19.7%となった。M&A に関わる可能性は二分化している。

規模別でみると、「大企業」は 12.5%が M&A に関わる可能性があり、「中小企業」では 44.1%、「小規模企業」では 36.7%となった。



M&A への関わり方 ～規模別～



注1：母数は有効回答企業76社

注2：小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

¹ M&A とは、企業の買収や合併、一部株式を売買して資本提携することなどの企業戦略全般を指す。また、人材難などにより後継者がいない場合の事業承継の手段や事業の一部を譲渡することなども含められる。なお、資本の移動を伴わない業務提携（共同研究、開発など）は含まない。

まとめ

本調査によると、事業承継を経営上の問題と認識している企業は 65.7% で 3 社に 2 社という結果となった。また、新型コロナウイルスの感染拡大を契機として事業承継に対する関心が「高くなった」と回答した企業は 14.5% 存在する。一方で、新型コロナウイルスによって事業承継どころではなくなっているという声があげられている。

事業承継に関する計画の有無では、企業の 42.1% が計画を有していた。特に事業承継を経営上の問題と認識している企業ほど計画を有している割合が高い。また、社長年齢が高くなるほど事業承継の計画を有している割合や計画を進めている割合も増加する傾向が表れている。

事業承継を行う上で苦労したことでは、苦労しそうなこととともに後継者に関する項目が上位となっている。事業承継の手段の一つとして注目されている M&A に関しては、可能性がある割合とない割合は二分化する結果となった。

経済産業省によると、現状のままだと 2025 年までに日本企業全体の 3 分の 1 にあたる 127 万人の経営者が 70 歳以上かつ後継者未定になり、廃業が増加した場合には多くの雇用や GDP が失われると試算している。こうした現状に加えて新型コロナウイルスの影響拡大による企業の休業リスクの増加もあり、事業承継は従来以上に喫緊の課題になったといえよう。事業承継を行う上で大きな課題となる後継者の決定や育成に対する支援もさることながら、新型コロナウイルスの影響により借入れが増加している企業もあり、事業承継への影響も懸念されることから、財務面に対する施策を講じることも求められている。

企業規模区分

中小企業基本法に準拠するとともに、全国売上高ランキングデータを加え、下記の通り区分。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員300人以下」	「従業員20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員50人以下」	「従業員5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」

注1: 中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

注2: 中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3: 上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 大分支店 宮崎 喜幸

TEL 097-536-6363 FAX 097-536-1213

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。